

やまくに山村塾 第94回行事  
講演と現地視察「木地師の足あと」

期日：4月23日（日）13：00～17：00  
講師：梶原豊美氏（やまくにの歴史と文化を学ぶ会）  
参加人数：15名（外部6名、塾員9名）  
実地見学では2人退席（藤原夫妻）  
世話人：西村富美枝（塾員）



第一部 講演「木地師の足あと」（13：00～14：00）  
会場 コアやまくに  
スライド使用 10分間の質疑応答あり

第二部 現地見学（14：15～17：00）  
コアやまくに駐車場から車4台に分乗して槻木地区へ移動

- 1) 現存する木地師の墓（2か所）を訪ねる  
高内 轟および薬師溪谷入り口
- 2) 薬師溪谷の自然観察  
「伏流水吹き出し口」 見学 （駐車）  
↓ ↑ 散策 伏流水の現象を体感  
「伏流水吸い込み口」 見学 （今回は河原には下りない）

16：10 薬師溪谷吹き出し口から帰路へ  
途中、「山国の女性」山本登久の墓を訪ねる  
17：00 コアやまくに駐車場 到着・解散

[感想]

明治初期までは、全国各地で朝廷・幕府の許可を受けた木地師たち（木工製品を作ることを生業とする職人集団）は、良質な材木を求めて20～30年単位で日本全国の山中に散らばって移住していたという。近年では忘れ去られたようにひっそりと現存する木地師の墓を訪れた。

墓は大字槻木の高内・轟地区2か所。どちらも足場の悪い樹木に囲まれた薄暗い傾斜地に建立されていた。その墓石に「菊の御紋」が刻まれたモノもあり、その暮らしぶりとは裏腹だろうと思われる気位の高さを感じながら花を手向けた。そして、山国町の山深いこの地で木地師たちが生活した有様に思いを馳せた。

最初に講師による「木地師」について学習して現地探訪を行ったのは良かったと思う。

木地師の墓の斜面をよじ登り薬師林道に出る。林道下の彦水川の伏流水を見学、体感。英彦山を源流とする彦水川の伏流水「吹き出し口」から「吸い込み口」の区間を往復散策した。

天気も良く森林浴に最適だった。しかし、それ以上に面白い現象を体感した。この散策では川の流れが地下に潜っている伏流水の区間を歩いており、「吹き出し口」と「吸い込み口」で聴こえていた【川の水の流れる音が消えている】のに気付いた。

計画通りに時間配分できたので、「山本登久の墓」を訪ねることが出来た。講師の梶原氏より提案された場所で、墓石に刻まれた碑文の解説資料を参加者へ配布した。

山国の女性が不治の病を悟り「医術の進歩に約立ててほしい」と、九州で初めての献体解剖の献体者となった。身体不調の時に「後世の役に立ちたい」と献体を申し出た山本登久女の志を心に留めておきたい。山国町は一般人の文化水準が高いのかも。

記：西村富美枝

この講座に参加して初めて木地師の存在を知った。講師の梶原氏がここ山国で活躍した木地師の資料を読み解き、良い木材を求めて山中を移動した軌跡を明らかにされたことにも、とても感動した。九州で初めての献体解剖の献体者、山本登久さんも以前の山村塾の講座で知り、当時の市井の女性が後世へ貢献しようと考えた、その思いに心を打たれたが、今回お墓の碑文を実際に拝見し感動が蘇った。

記：長野紘子



